

Risk factors for adverse drug reactions to sulfamethoxazole-trimethoprim prophylaxis in patients with rheumatic and musculoskeletal diseases

膠原病患者におけるニューモシスチス肺炎予防で使用する

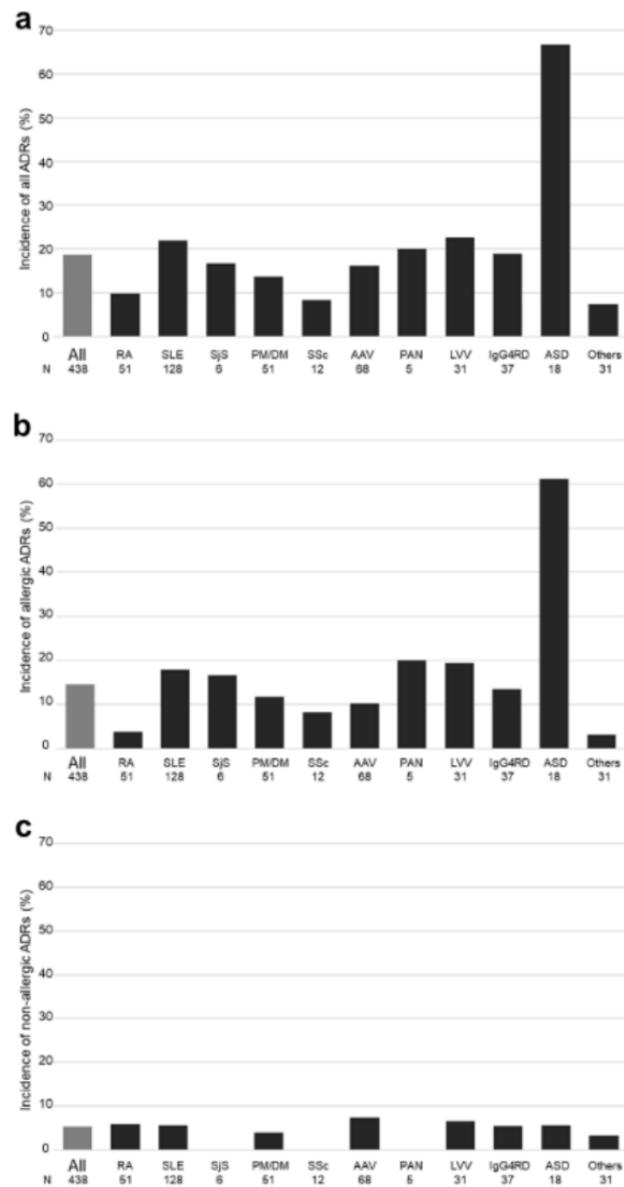
スルファメトキサゾール/トリメトプリム合剤の有害事象発現のリスク因子の解明
平本 和音

本研究は、膠原病の寛解導入時に、ニューモシスチス肺炎予防のために使用するスルファメトキサゾール/トリメトプリム合剤（ST 合剤）による有害事象発現のリスク因子を同定することを目的としたものです。

解析対象の 438 人のうち、82 人（18.7%）で ST 合剤による有害事象発現が認めました。有害事象が発現した群ではそうでない群と比較して、有意に高齢で、慢性腎臓病が多く、ベースラインでリンパ球低値、血小板数低値、血清 Alb 低値、血清 AST 高値、血清フェリチン高値を認めました。基礎疾患別では、成人発症 Still 病で有意に有害事象の発現率が高いことが分かりました（66.7%, $p < 0.001$ ）。さらに有害事象を用量非依存性（allergic adverse drug reactions）もしくは用量依存性（non-allergic adverse drug reactions）に分けて解析を行ったところ、用量非依存性の有害事象では成人発症 Still 病（OR 10.27, $p < 0.001$ ）とリンパ球低値（OR 0.9994, $p = 0.03$ ）が、用量依存性の有害事象では高齢であること（OR 1.032, $p = 0.04$ ）と ACE 阻害薬/ARB の使用（OR 4.795, $p < 0.001$ ）が ST 合剤の有害事象発現の独立したリスク因子として抽出されました。

本研究の結果から、成人発症 Still 病やベースラインのリンパ球が低値の患者では用量非依存性の有害事象発現に、高齢者や ACE 阻害薬/ARB 使用者では用量依存性の有害事象発現にそれぞれ注意を要することが分かりました。

<https://doi.org/10.1093/mr/roae059>



Hiramoto K, et al. Mod Rheumatol 2025;35(1):94-101, Figure 2